

メッセージ 3
新しい復興のための神・人の生活

キリストを学ぶ 、イエスにあるあの 実際にしたがつて	エペソ 4:20 しかしあなたがたは、そのように キリストを学んだ ではありません。エペソ 4:21 もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、 イエスにあるあの実際にしたがつて 教えられているのであれば、
全焼のささげ物	レビ 1:9 ただし、その(全焼のささげ物の)内臓とその脚は水で洗わなければならない。そして祭司は、その すべてを祭壇の上で 、全焼のささげ物として 焼いて 煙を立ち上らせなければならない。 それは火によるささげ物であり、エホバを満足させるかおり である。
愛の生活	Iヨハ 4:17 こうして、 愛は わたしたちの中で全うされました。それは、わたしたちが裁きの日に大胆さを持つためです。なぜなら、 彼がそうであるように、わたしたちもこの世でそうであるからです。

MSG3 新しい復興のための神・人の生活			
I	イエスにあるあの実際にしたがつてキリストを学ぶ	A	イエスにあるあの実際にしたがつて(生活)
		B	命としてのキリストにおいて、キリストを学ぶ
		C-E	キリストを学ぶ道は命の道(路線)です(愛、霊、食)
II	全焼のささげ物の生活	A-D	全焼のささげ物の予表、意義、実際(全焼のささげ物の 認識)
		E-F	全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置く(経験)
		G-I	全焼のささげ物の灰(全焼のささげ物の結果)
III	全焼のささげ物の実際 祈りの生活	A	主の生活は、彼の務めでした
		B-D	主イエスは祈りの人でした
IV	愛の生活	A	命の霊の法則は愛の法則です
		B-D	愛の法則が発動した結果

(朝ごとの食物)第3週 新しい復興のための神・人の生活			
日	段落、流れ	主題	要点
1	イエスにある あの実際	イエスにあるあの実際にしたがつてキリストを学ぶ	イエスにあるあの実際(生活)
2		キリストを学ぶ道は命の道です	イエスの模範にしたがつて、彼から学ぶ(命) イエスを愛し、ミングリングされた霊の中で生きる イエスを食べて彼のゆえに生きる
3	全焼のささげ物 の生活	全焼のささげ物の生活を認識する	全焼のささげ物の予表と意義 キリストの命は全焼のささげ物の実際です
4		全焼のささげ物の生活を経験した結果	全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置く 全焼のささげ物の灰
5	全焼のささげ物の実際 祈りの生活	主イエスの生活と祈りの人	主の生活は、彼の務めでした 主イエスは祈りの人でした
6	愛の生活	神を生かし出すことは愛の生活です	愛の法則 愛の法則が発動して、人を愛し、人を牧養する

結びの言葉
キリストを学ぶ、全焼のささげ物の生活、祈りの生活、愛の生活
彼を愛し、彼を食べる
祈りの生活
人を愛し、人を牧養する

メッセージ 3

新しい復興のための神・人の生活

聖書：レビ 1:3, 9. 6:8-13. ヨハネ 21:15

イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶ

- I. 神の心の願いは、「イエスにあるあの実際」(エペソ 4:21)、すなわち四福音書に記録されているイエスの神・人の生活の実際の状態が、キリストのからだの多くの肢体の中で、実際の霊によって複製されて、キリストのからだの実際、すなわち、神のエコノミーの最高峰となって、新しい復興を持つことです(20-24 節)：

エペソ 4:20 しかしあなたがたは、そのようにキリストを学んだのではありません。

エペソ 4:21 もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがって教えられているのであれば、

エペソ 4:22 あなたがたは、以前の生活様式において、あの欺きの情欲によって腐敗している古い人を、脱ぎ捨ててしまったのです。

エペソ 4:23 そして、あなたがたの思いの霊の中で新しくされ、

エペソ 4:24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。

イエスにあるあの実際にしたがって(生活)

- A. 四福音書は、神が願っている生活の模範、すなわち神を満足させ、神の定められた御旨を成就することができる生活の鋳型を見せています。イエスは、神の中で、神と共に、神のためにすべての事を行なう生活をしました。神はイエスの生活の中におられ、イエスは神と一でした。これが「イエスにあるあの実際」が意味することです。イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶとは、キリストの模範の中へと鋳込まれること、すなわち、キリストのかたちに同形化されることです——ローマ 8:28-29. エペソ 4:20-21。

ローマ 8:28 また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、わたしたちは知っています。

ローマ 8:29 なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

命としてのキリストにおいて、キリストを学ぶ

- B. わたしたちが主によって成就されつつあるのは、神・人たちとなって、第一の神・人であるキリストの原型にしたがって、わたしたちの天然の命を否むことによって、神聖な命を生きるためです——マタイ 11:29 前半. 17:5 後半. I ペテロ 2:21：

マタイ 11:29 わたしは心の柔和なへりくだった者であるから、わたしのくびきを負い、わたしから学びなさい。 そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。

マタイ 17:5 彼がまだ語っている間に、見よ、輝く雲が彼らを覆った。そして見よ、雲の中から声があつて言った、「これはわたしの子、愛する者、わたしは彼を喜ぶ。彼に聞け！」。

I ペテ 2:21 あなたがたが召されたのはこのためです。なぜなら、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、あなたがたが彼の足跡に従うようにと、原型を残されたからです。

1. 彼は彼の地上の生活の中で、四福音書で啓示されているように、一つの模範を設立しました。次に彼は十字架につけられ復活して、命を与える霊と成りました。それは彼がわたしたちの中へと入って、わたしたちの命となるためでした。わたしたちは彼の模範にしたがって彼から学びます。それはわたしたちの天然の命によってではなく、復活におけるわたしたちの命としての彼によってです——I コリント 15:45 後半. コロサイ 3:4。

I コリ 15:45 そこで、「最初の人、アダムは、生きた魂と成った」と書かれていますが、最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。

コロ 3:4 わたしたちの命なるキリストが現される時、あなたがたも、彼と共に栄光のうちに現されます。

2. わたしたちのクリスチャン生活は、キリストの中にある生活であり、またわたしたちの中のキリストの生活です。わたしたちは鋳型としてのキリストの中におり、彼はわたしたちの命としてわたしたちの中におられます。このようにして、わたしたちはイエスにあるあの実際にしたがって、キリストを学

びます。この実際が、キリストのからだの実際です—— I コリント 1:30. II コリント 5:17. 12:2 前半. コロサイ 1:27. ガラテヤ 2:20. ローマ 8:10.

- I コリ 1:30 しかし、あなたがたがキリスト・イエスの中にあるのは、神によるのです。このキリスト・イエスは、神からわたしたちに与えられた知恵、すなわち、義と聖別と贖いとなられました。
- II コリ 5:17 ですから、だれでもキリストの中にあるなら、その人は新創造です。古いものは過ぎ去りました。見よ、それらは新しくなりました。
- II コリ 12:2 わたしはキリストの中にある一人の人を知っています。十四年前（肉体の中であるか、わたしは知りません。それとも肉体の外であるか、わたしは知りません。神が知っておられます）、そのような人が、第三の天に取り去られました。
- コロ 1:27 神は彼らに、異邦人の間にあるこの奥義の栄光の豊富がどんなものであるかを、知らせたいと願われました。それはあなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです。
- ガラ 2:20 わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです。そしてわたしは今、肉体の中で生きているその命を、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。
- ローマ 8:10 しかし、キリストがあなたがたの中におられるなら、体は罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに命です。

C-D:キリストを学ぶ道は命の道(路線)です(愛、霊、食)

愛する

- C. わたしたちは主を愛し、主と接触し、主に祈るとき、福音書で記述されている鋳型、形、模範にしたがって、自動的に彼を生きます。このようにして、わたしたちはこの鋳型のかたちに形成され、同形化されます。これがキリストを学ぶことの意味するものです——マタイ 11:29. ローマ 8:29。
- マタイ 11:29 わたしは心の柔和なへりくだった者であるから、わたしのくびきを負い、わたしから学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。
- ローマ 8:29 なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

霊の中で生きる

- D. わたしたちはミングリングされた霊の中で生きるとき、実際の霊によって、イエスにあるあの実際にしたがって、キリストを学んでいます。わたしたちは、わたしたちの模範としての彼から学びます。それは、彼の伝記がわたしたちの歴史となるためです。新しい人としてのキリストのからだの生活は、福音書において啓示されているイエスの生活と全く同じであるべきです——ガラテヤ 6:17-18. ローマ 1:1, 9. エペソ 4:20-24. ピリピ 2:5. マタイ 11:29. I ペテロ 2:21。
- ガラ 6:17 これからは、だれもわたしを煩わさないでいただきたい。わたしは、イエスの焼き印をこの身に帯びているのですから。
- ガラ 6:18 兄弟たちよ、わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にありますように。アーメン。
- ローマ 1:1 キリスト・イエスの奴隷、召された使徒、神の福音へと選び分けられたパウロ。
- ローマ 1:9 わたしがわたしの霊の中で、御子の福音において仕えている神が、わたしの証人なのですが、わたしはいつも祈りの中で、あなたがたのことを絶えず覚えていて、
- エペソ 4:20 しかしあなたがたは、そのようにキリストを学んだものではありません。
- エペソ 4:21 もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがって教えられているのであれば、
- エペソ 4:22 あなたがたは、以前の生活様式において、あの欺きの情欲によって腐敗している古い人を、脱ぎ捨ててしまったのです。
- エペソ 4:23 そして、あなたがたの思いの霊の中で新しくされ、
- エペソ 4:24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。
- ピリピ 2:5 キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい。
- マタイ 11:29 わたしは心の柔和なへりくだった者であるから、わたしのくびきを負い、わたしから学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。
- I ペテ 2:21 あなたがたが召されたのはこのためです。なぜなら、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、あなたがたが彼の足跡に従うようにと、原型を残されたからです。

食べる

- E. 神が主イエスを遣わして人と成らせた目的は、主イエスが神聖な命によって神・人の生活をするた

めでした。わたしたちは彼を食べるとき、彼のゆえに生きて、彼と全く同じである宇宙的な大いなる人、すなわち、神聖な命によって神・人の生活をする人となります——哀 3:22-24, 55-56. 啓 2:4, 7. ヨハネ 6:57, 63. エレミヤ 15:16. エペソ 6:17-18. 詩 119:15.

哀 3:22 わたしたちが滅ぼされないのは、エホバの慈愛である。まことに、彼のあわれみは尽きることがないからだ。

哀 3:23 それらは朝ごとに新しい。「あなたの信実は大です。」

哀 3:24 エホバはわたしの分け前です」とわたしの魂は言う。それゆえ、わたしは彼を待ち望む。

哀 3:55 エホバよ、わたしは最も深い穴から、あなたの御名を呼び求めました。

哀 3:56 あなたはわたしの声を聞かれました。わたしの呼吸に、わたしの叫びに、耳を隠さないでください。

啓 2:4 しかし、わたしには、あなたを責めるべき事が一つある。あなたは初めの愛を離れてしまった。

啓 2:7 耳のある者は、その霊が諸召会に言われることを聞くがよい。勝利を得る者には、神のパラダイスにある命の木から食べさせよう』。

ヨハネ 6:57 生ける父がわたしを遣わされ、わたしが父のゆえに生きているように、わたしを食べる者も、わたしのゆえに生きる。

ヨハネ 6:63 命を与えるのはその霊である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに語った言葉は霊であり、命である。

エレ 15:16 あなたの言葉が見いだされて、わたしはそれを食べました。あなたの言葉はわたしにとって、心の楽しみ、また喜びとなりました。エホバ、万軍の神よ、まことに、わたしは、あなたの御名によって呼ばれているのです。

エペソ 6:17 また救いのかぶとを受け取りなさい。さらにその霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を、エペソ 6:18 すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい。どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい。

詩 119:15 わたしはあなたの教訓を思い巡らし、あなたの路を重んじます。

II. 神を喜ばせる唯一の生活は、キリストが地上で生きた生活を繰り返す生活です。これは、全焼のささげ物としてのキリストの経験の中でキリストを経験する生活です——レビ 1:9. ヨハネ 8:29. II コリント 5:9:

レビ 1:9 ただし、その内臓とその脚は水で洗わなければならない。そして祭司は、そのすべてを祭壇の上で、全焼のささげ物として焼いて煙を立ち上らせなければならない。それは火によるささげ物であり、エホバを満足させるかおりである。

ヨハネ 8:29 わたしを遣わされた方は、わたしと共におられる。彼はわたしを独りにしておかれない。わたしはいつも、彼に喜ばれる事を行なっているからである」。

II コリ 5:9 こういうわけで、わたしたちはまた、体を住まいとしているにしても、それから離れているにしても、彼に喜ばれようと懸命に努めています。

A-D:全焼のささげ物の予表、意義、実際(全焼のささげ物の認識)

予表

A. 全焼のささげ物は、絶対に神のためであり、また神の満足のための生活をするキリストを予表します。全焼のささげ物はまた、神の民にそのような生活をさせることを可能にする命であるキリストを予表します——レビ 1:3. 民 28:2-3. ヨハネ 5:30. 6:38. 8:29. ヘブル 10:5-10。

レビ 1:3 その人のささげ物が、牛の群れからの全焼のささげ物であるなら、彼は傷のない雄を献げなければならない。それを集会の天幕の入り口で献げて、彼がエホバの御前に受け入れられるようにしなければならない。

民 28:2 「イスラエルの子たちに命じて言いなさい、『わたしのささげ物、わたしを満足させるかおりの、火によるささげ物としてのわたしの食物を、あなたがたは注意して、その定められた時にわたしに献げなければならない』。

民 28:3 あなたは彼らに言わなければならない、『あなたがたがエホバに献げる火によるささげ物は次のとおりである。すなわち常にささげる全焼のささげ物として毎日、傷のない一歳の雄の小羊二頭。

ヨハネ 5:30 わたしは自分からは何も行なうことができない。わたしは聞くとおりに裁く。そしてわたしの裁きは正しい。なぜなら、わたしは自分の意志を求めないで、わたしを遣わされた方のみこころを求めるからである。

ヨハネ 6:38 なぜなら、わたしが天から下って来たのは、自分の意志を行なうためではなく、わたしを遣わされた方のみこころを行なうためだからである。

ヨハネ 8:29 わたしを遣わされた方は、わたしと共におられる。彼はわたしを独りにしておかれない。

わたしはいつも、彼に喜ばれる事を行なっているからである」。

ヘブル 10:5 こういうわけで、彼は世に入って来て言われます、「あなたはいけにえやささげ物を望まないで、わたしのために体を備えてくださいました。」

ヘブル 10:6 全焼のささげ物と罪のためのいけにえを、あなたは喜ばれませんでした。

ヘブル 10:7 その時わたしは言いました、『見よ、(その書の巻物の中にわたしについて書かれている) あなたののみこころを行なうために、神よ、わたしは来ました』」。

ヘブル 10:8 前に述べたように、「あなたは、いけにえとささげ物と全焼のささげ物と罪のためのいけにえを望みもせず、喜びもしませんでした」(それらは律法にしたがってささげられます)。

ヘブル 10:9 また彼は、「見よ、あなたののみこころを行なうために、わたしは来ました」と言われました。彼は第二のものを打ち立てるために、第一のものを取り去られます。

ヘブル 10:10 そのみこころによって、イエス・キリストの体が一度で永遠にささげられたことを通して、わたしたちは聖別されたのです。

意義(意味)

B. 「全焼のささげ物」と訳された言葉は、昇っていくものを示します。この昇っていくことはキリストを指しています(レビ 1:3, 10, 14)。地から神に昇っていくことができる唯一のものは、キリストが生きた生活です。なぜなら彼は、神のために絶対的である生活をした唯一の方であるからです(ヨハネ 6:38)。

レビ 1:3 その人のささげ物が、牛の群れからの全焼のささげ物であるなら、彼は傷のない雄を献げなければならない。それを集会の天幕の入り口で献げて、彼がエホバの御前に受け入れられるようにしなければならない。

レビ 1:10 その人のささげ物が、全焼のささげ物のために、群れからの羊かやぎであれば、彼は傷のない雄を献げなければならない。

レビ 1:14 もし、エホバへのささげ物が鳥の全焼のささげ物であるなら、その人は山ばとか家ばとのひなの中からささげ物を、献げなければならない。

ヨハネ 6:38 なぜなら、わたしが天から下って来たのは、自分の意志を行なうためではなく、わたしを遣わされた方のみこころを行なうためだからである。

意義(意味)

C. 全焼のささげ物は、「エホバを満足させるかおり」でした(レビ 1:9)。「満足させるかおり」と訳されたヘブル語は、文字どおりには、「安息や満足の香り」を意味します。満足させるかおりは、満足、平安、安息をもたらす香りです。そのような満足させるかおりは、神にとって享受です。

レビ 1:9 ただし、その内臓とその脚は水で洗わなければならない。そして祭司は、そのすべてを祭壇の上で、全焼のささげ物として焼いて煙を立ち上らせなければならない。それは火によるささげ物であり、エホバを満足させるかおりである。

実際

D. わたしたちの内側のキリストの命は、全焼のささげ物の実際です。これは従順の命、服従の命、命の木の原則にしたがって神に完全に依存する命です—ピリピ 2:8. ヨハネ 5:19, 30. ヘブル 5:8. 10:7。

ピリピ 2:8 人としての有り様で見いだされ、ご自身を低くして、死にまでも、しかも十字架の死に至るまでも従順になられました。

ヨハネ 5:19 イエスは彼らに答えて言われた、「まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。子は、父が行なわれることを見ないでは、自分から何もすることができない。父が行なわれることは何であれ、子も同じように行なう。

ヨハネ 5:30 わたしは自分からは何も行なうことができない。わたしは聞くとおりに裁く。そしてわたしの裁きは正しい。なぜなら、わたしは自分の意志を求めないで、わたしを遣わされた方のみこころを求めるからである。

ヘブル 5:8 彼は御子であられたのに、受けた苦しみによって従順を学ばれました。

ヘブル 10:7 その時わたしは言いました、『見よ、(その書の巻物の中にわたしについて書かれている) あなたののみこころを行なうために、神よ、わたしは来ました』」。

1. 人が単独で、独立して、神から離れて、神の外側で行動することは罪です。神は、わたしたちがあらゆることでご自身の指示にしたがって行動することを願っています—詩 40:7-8. I ヨハネ 3:4。

詩 40:7 その時、わたしは言いました、「見よ、わたしは来ました。その書の巻物に、わたしについて書かれています。」

詩 40:8 わたしの神よ、わたしはあなたのみこころを行なうことを喜びます。まことに、あなたの律法は

わたしの内なる各部分にあります」。

I ヨハ 3:4 すべて罪を犯す者は、また不法を行ないます。罪は不法です。

2. 「だれでも小さい子供のように神の王国を受け入れない者は、決してその中に入ることはない」(ルカ 18:17)。神は、わたしたちがいつも小さい子供のようになることを願っています。なぜなら、神は、わたしたちがいつも彼に依存することを願っているからです。自信は神に依存することの敵です。

ルカ 18:17 まことに、わたしはあなたがたに言う。だれでも小さい子供のように神の王国を受け入れない者は、決してその中に入ることはない」。

E-F:全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置く(全焼のささげ物の経験)

- E. 正しい祈りを通してわたしたちの全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置くことによって、わたしたちは彼に結合され、彼とわたしたちは一になります。キリストがわたしたちの中で生きるとき、彼は彼が地上で生きた生活、すなわち全焼のささげ物の生活を、わたしたちの中で繰り返します——レビ 1:4. I コリント 6:17. ガラテヤ 2:20。

レビ 1:4 彼はその全焼のささげ物の頭の上に手を置かなければならない。そうすれば、それは彼に代わって受け入れられて、彼のために罪を覆う。

I コリ 6:17 しかし、主に結合される者は、主と一つ霊になります。

ガラ 2:20 わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです。そしてわたしは今、肉体の中で生きているその命を、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

- F. そのような結合、そのような一体化の中で、わたしたちの弱さ、欠点、落ち度はすべて、彼によって担われます——II コリント 5:21. ガラテヤ 2:20 前半。

II コリ 5:21 神は罪を知らなかった方を、わたしたちに代わって罪とされました。それは、わたしたちが彼の中で神の義となるためです。

ガラ 2:20 わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです。そしてわたしは今、肉体の中で生きているその命を、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

G-I:全焼のささげ物の灰(全焼のささげ物の結果)

- G. わたしたちは主にわたしたちを燃やしていただくかなければなりません。それは、わたしたちが常にささげる全焼のささげ物となって他の人を燃やすためであり、また減少させられて灰となり、新エルサレムとなって、神を表現するためです——詩 20:3. レビ 1:16. 6:8-13. I コリント 3:12 前半. 啓 3:12. 21:2, 10-11, 18-21:

詩 20:3 彼があなたの穀物のささげ物をすべて覚え、あなたの全焼のささげ物を脂肪として受け入れられますように。セラ

レビ 1:16 また、彼はその餌袋をその羽と共に取り除き、それを祭壇の東側、灰を傾け出す場所に捨てなければならぬ。

レビ 6:8 次に、エホバはモーセに語って言われた、

レビ 6:9 「アロンとその子たちに命じて言いなさい、『全焼のささげ物の規則は次のとおりである。全焼のささげ物は祭壇の火床の上に、夜通し朝までするようにし、祭壇の火はそこに燃え続けさせなければならない。』

レビ 6:10 祭司は、亜麻の衣を着て、亜麻のももひきを身に着け、祭壇の上の火で焼き尽くされた全焼のささげ物の脂肪の灰を取り上げて、それを祭壇のそばに置かなければならぬ。

レビ 6:11 それから、彼は衣を脱ぎ、別の衣を着て、その灰を営所の外の清い場所に運び出さなければならない。

レビ 6:12 祭壇の上の火は、その上で燃え続けさせなければならない。それを消してはならない。祭司は朝ごとに薪をその上で燃やし、全焼のささげ物をその上に並べ、平安のささげ物の脂肪をその上で焼いて煙を立ち上らせなければならない。

レビ 6:13 火は祭壇の上で絶えず燃え続けさせなければならない。それを消してはならない。

I コリ 3:12 ところが、その土台の上に、人が金、銀、宝石、木、草、刈り株をもって建てるなら、

啓 3:12 勝利を得る者を、わたしの神の宮の柱にしよう。彼はもはや決して外に出ることはない。

わたしはまた彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち天から出て、わたしの神

から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書き記そう。

啓 21:2 わたしはまた聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて、天から出て神から下って来るのを見た。

啓 21:10 そして彼はわたしを霊の中で、大きな高い山へ連れて行き、聖なる都エルサレムが、天から出て神から下って来るのをわたしに見せたが、

啓 21:11 それは神の栄光を持っていた。その光は最も尊い宝石のようであり、水晶のように透明な碧玉のようであった。

啓 21:18 城壁は碧玉で築かれ、都は純金であって、透き通ったガラスのようであった。

啓 21:19 都の城壁の土台は、あらゆる宝石で飾られていた。第一の土台は碧玉、第二はサファイア、第三は玉髄、第四はエメラルド、

啓 21:20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパズ、第十は緑玉髄、第十一はヒヤシンス石、第十二は紫水晶である。

啓 21:21 十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠からなっていた。都の大通りは純金であって、透明なガラスのようであった。

1. 灰は、減少させられて無となったキリストを表徴します。わたしたちは、減少させられて灰となったキリストと一であるので、わたしたちも減少させられて灰となります。すなわち、減少させられて無となり、ゼロとなります——マルコ 9:12. イザヤ 53:3. I コリント 1:28. II コリント 12:11。

マルコ 9:12 イエスは言われた、「確かにエリヤがまず来て、すべての事を復興する。それでは、人の子は多くの苦しみを受け、無きものと見なされると書かれているのは、どうしてであろう？

イザヤ 53:3 彼はさげすまれ、人々に捨てられ、悲しみの人で、苦勞を知っていた。人々が顔をそむけるほど、彼はさげすまれた。わたしたちも彼を尊ばなかった。

I コリ 1:28 また神は、有るものを無いものとするために、この世の生まれの卑しい者、さげすまれた者、すなわち無きに等しい者を選ばれました。

II コリ 12:11 わたしは愚かになりました。あなたがた自身が、わたしに強いてそうさせてしまったのです。なぜなら、わたしがあなたがたによって推薦されるはずであったからです。わたしは、たとえ取るに足りない者だとしても、あの超使徒たちに劣っている事は何もありません。

2. わたしたちはキリストと彼の死の中で一体化されればされるほど、自分が灰の堆積となっていることをますます認識するでしょう。わたしたちは灰となると、もはや天然の人ではありません。そうではなく、わたしたちは、十字架につけられ、終結させられ、焼かれた人です——ガラテヤ 2:20 前半。

ガラ 2:20 わたしはキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです。そしてわたしは今、肉体の中で生きているその命を、わたしを愛し、わたしのためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

H. 灰を祭壇の東側、日の出の方向に置くことは、復活を暗示しています——レビ 1:16. ヨハネ 11:25. ピリピ 3:10-11. II コリント 1:9:

レビ 1:16 また、彼はその餌袋をその羽と共に取り除き、それを祭壇の東側、灰を傾け出す場所に捨てなければならぬ。

ヨハネ 11:25 イエスは彼女に言われた、「わたしは復活であり、命である。わたしの中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる。

ピリピ 3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、

ピリピ 3:11 何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。

II コリ 1:9 実に、わたしたちは自ら、自分自身のうちに死という答えを持ちました。それは、わたしたちが自分自身に信頼するのではなく、死人を復活させる神に信頼するためでした。

1. 全焼のささげ物としてのキリストにとって、灰は終わりではなく、始まりです。灰は、キリストが死に渡されたことを意味します。しかし、東は復活を表徴します——マルコ 9:31。

マルコ 9:31 なぜなら、イエスは弟子たちに教えておられたからである。すなわち彼は言われた、「人の子は人々の手に渡され、彼らは彼を殺す。彼は殺されてから三日の後に復活する」。

2. わたしたちはキリストの中で減少させられて灰になればなるほど、ますます東側へと置かれます。わたしたちは東側において、太陽が昇ることと、わたしたちが復活の日の出を経験することを確認します——ピリピ 3:10-11。

ピリピ 3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、

ピリピ 3:11 何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。

I. 最終的に、この灰は新エルサレムとなります——啓 3:12, 21:2, 10-11:

啓 3:12 勝利を得る者を、わたしの神の宮の柱にしよう。彼はもはや決して外に出ることはない。わたしはまた彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち天から出て、わたしの神から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書き記そう。

啓 21:2 わたしはまた聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて、天から出て神から下って来るのを見た。

啓 21:10 そして彼はわたしを霊の中で、大きな高い山へ連れて行き、聖なる都エルサレムが、天から出て神から下って来るのをわたしに見せたが、

啓 21:11 それは神の栄光を持っていた。その光は最も尊い宝石のようであり、水晶のように透明な碧玉のようであった。

1. キリストの死は、わたしたちを終わりへともたらし、わたしたちを減少させて灰とならせます。復活の中でこの灰は、神の建造のための尊い材料となります—— I コリント 3:9 後半, 12 前半。

I コリ 3:9 なぜなら、わたしたちは神の同労者であり、あなたがたは神の耕された地であり、神の建物であるからです。

I コリ 3:12 ところが、その土台の上に、人が金、銀、宝石、木、草、刈り株をもって建てるなら、

2. わたしたちは減少させられて灰となると、三一の神の造り変えの中へともたらされて、新エルサレムを建造するための尊い材料となります——ローマ 12:1-2, II コリント 3:18, 啓 21:18-21。

ローマ 12:1 兄弟たちよ、こういうわけで、わたしは神の慈しみを通して、あなたがたに勧めます。あなたがたの体を、神に喜ばれる、聖なる、生きた犠牲としてささげなさい。それが、あなたがたの理にかなった奉仕です。

ローマ 12:2 またこの時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい。それは、何が神のみこころであるか、すなわち何が善であって、喜ばれ、完全なものであるかを、あなたがたがわきまえるようになるためです。

II コリ 3:18 しかし、わたしたちはみな、主の栄光をおおいの顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

啓 21:18 城壁は碧玉で築かれ、都は純金であって、透き通ったガラスのようであった。

啓 21:19 都の城壁の土台は、あらゆる宝石で飾られていた。第一の土台は碧玉、第二はサファイア、第三は玉髄、第四はエメラルド、

啓 21:20 第五は赤緋めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパズ、第十は緑玉髄、第十一はヒヤシンス石、第十二は紫水晶である。

啓 21:21 十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠からなっていた。都の大通りは純金であって、透明なガラスのようであった。

全焼のささげ物の実際、祈りの生活

III. 神の新約の務めを遂行することにおいて、全焼のささげ物の実際としての主イエスは、自分からは何も行なわず（ヨハネ 5:19）、自分の働きを行なわず（4:34, 17:4）、自分の言葉を語らず（14:10, 24）、自分の意志によって何も行なわず（5:30）、自分の栄光を求めませんでした（7:18）。彼は決して失望しませんでした。なぜなら、彼はただ神だけに満足していたからです（イザヤ 42:4, 50:4-5, 53:2 前半, 参照, ヨハネ 4:13-14, 6:15, マルコ 9:7-8）:

ヨハネ 5:19 イエスは彼らに答えて言われた、「まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。子は、父が行なわれることを見ないでは、自分から何もすることができない。父が行なわれることは何であれ、子も同じように行なう。」

ヨハネ 4:34 イエスは彼らに言われた、「わたしの食物とは、わたしを遣わされた方のみこころを行ない、彼のみわざを成し遂げることである。」

ヨハネ 17:4 わたしは、あなたがわたしに行なわせようとして与えられたわざを成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。

ヨハネ 14:10 わたしが父の中におり、父がわたしの中におられることを、あなたは信じないのか? わたしがあなたがたに語る言葉は、わたしが自分から語るのではない。わたしの中に住んでいる父が、ご自身のわざを行なっておられるのである。

ヨハネ 14:24 わたしを愛さない者は、わたしの言を守らない。あなたがたが聞いている言は、わたしのものではなく、わたしを遣わされた父の言である。

ヨハネ 5:30 わたしは自分からは何も行なうことができない。わたしは聞くとおりに裁く。そしてわたしの裁きは正しい。なぜなら、わたしは自分の意志を求めないで、わたしを遣わされた方のみこころを求

めるからである。

ヨハネ 7:18 自分から語る者は、自分の栄光を求める。しかし、遣わされた方の栄光を求める者は、真実であり、彼の中に不義はない。

イザヤ 42:4 彼は衰えず、落胆せず、ついには公正を地に確立する。海沿いの地は彼の教えを待ち望む。

イザヤ 50:4 主エホバはわたしに、教えを受けた者の舌を与えて、疲れた者を言葉をもって、いかに支えるかを知らせられる。彼は朝ごとにわたしを呼び覚まし、わたしの耳を呼び覚まして、教えを受けた者のように聞かせられる。

イザヤ 50:5 主エホバはわたしの耳を開かれた。わたしは逆らわず、退かなかった。

イザヤ 53:2 まことに、彼は彼の御前にあって若木のように、乾いた地から出る根のように育った。彼には、わたしたちが見るべき形もなく、威厳もなく、わたしたちが慕うべき美しい姿もない。

ヨハネ 4:13 イエスは答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、また渴く。

ヨハネ 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して永遠に渴くことはない。わたしが与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである。

ヨハネ 6:15 イエスは、彼らがやって来て、ご自分を無理やり王にしようとするのを知り、ただ一人、再び山に退かれた。

マルコ 9:7 すると、雲が現れて彼らを覆い、その雲の中から声があった、「これはわたしの子、愛する者である。彼に聞け！」。

マルコ 9:8 彼らは急いで見回したが、もはやだれも見えず、イエスだけが彼らと一緒におられた。

主の生活は、彼の務めでした

A. 主の生活は彼の働き、彼の行動、彼の務めでした。彼の働きは彼の生活であり、彼の行動は彼の存在でした。彼にとって、彼の生活、彼の働き、彼の行動、彼の務めの間には何の違いもありませんでした。主イエスは彼の務めを生きました——参照、ルカ 22:26-27. ヨハネ 10:10 後半. I コリント 15:45 後半. I ヨハネ 5:16 前半. II コリント 3:6. ピリピ 1:25.

ルカ 22:26 しかし、あなたがたは、それではいけない。あなたがたの間で一番偉大な者は、一番若い者のように、また指導する者は、仕える者のようになりなさい。

ルカ 22:27 食卓に着く者と給仕する者とでは、どちらが偉大なのか？ 食卓に着く者ではないか？ しかし、わたしはあなたがたの中にいて、給仕する者のようにしている。

ヨハネ 10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を得、しかも豊かに得るためである。

I コリ 15:45 そこで、「最初の人、アダムは、生きた魂と成った」と書かれていますが、最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。

I ヨハ 5:16 だれでも自分の兄弟が、死に至らない罪を犯しているのを見たなら、その人は祈り求めるべきです。そうすれば、彼はその人に、死に至らない罪を犯している人たちに、命を与えます。死に至る罪があります。それについて祈り求めるべきであるとは、わたしは言いません。

II コリ 3:6 神はまたわたしたちを新しい契約の奉仕者として、資格づけてくださいました。それは、文字ではなく、霊の奉仕者です。なぜなら、文字は人を殺しますが、その霊は人に命を与えるからです。

ピリピ 1:25 このことを確信しているので、わたしが知っているのは、その信仰に対するあなたがたの進歩と喜びのために、わたしがここに残り、あなたがたすべてと共に居続けることであり、

B-D 主イエスは祈りの人でした

B. 主イエスは祈りの人でした。彼は、しばしば山へ行ったり、ひそかな場所に退いたりして、祈りました——マタイ 14:23. マルコ 1:35. ルカ 5:16. 6:12. 9:28.

マタイ 14:23 彼は群衆を解散させた後、祈るために一人で山へ登られた。夜になっても、彼は一人そこにおられた。

マルコ 1:35 さて、朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて荒野へ行き、そこで祈られた。

ルカ 5:16 しかし、彼ご自身はしばしば荒野に退いて祈られた。

ルカ 6:12 そのころ、イエスは祈るために山に出かけ、夜を徹して神に祈られた。

ルカ 9:28 これらの言の後、八日ほどして、イエスはペテロとヨハネとヤコブとを連れて、祈るために山へ登って行かれた。

C. 彼は五千人を養う奇跡の後、弟子たちを強いて彼から去らせました。それは彼が御父にひそかに祈るさらに多くの時間を持つためでした——マタイ 14:22-23:

マタイ 14:22 それからすぐ、イエスは強いて弟子たちを舟に乗り込ませて、ご自分より先に向こう岸へ行かせ、その間に群衆を解散させられた。

マタイ 14:23 彼は群衆を解散させた後、祈るために一人で山へ登られた。夜になっても、彼は一人そこ

におられた。

1. 天の王は、御父の愛する御子として(3:17)、人の立場に立ち(4:4)、天におられる彼の御父にひそかに祈る必要がありました。それは、彼が御父と一になり、彼が天の王国の設立のために地上で行なわれるどんな事においても、御父と共にいるためでした。

マタイ 3:17 すると見よ、天からの声が言った、「これはわたしの子、愛する者、わたしは彼を喜ぶ」。

マタイ 4:4 しかし、イエスは答えて言われた、「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべての言葉によって生きる』と書かれている」。

2. 彼がこれを行なったのは、荒野ではなく、山の上であり、すべての人から、さらには彼の弟子たちから離れて、ただ一人、御父と接触しました。

- D. 彼は祈りの人であり、神と一であったので、決して独りではありませんでした。なぜなら、御父が彼と共ににおられたからです。あらゆる瞬間、彼は御父の御顔を見ていました——ヨハネ 5:19. 16:32. 詩 16:7-8. 参照、27:8。

ヨハネ 5:19 イエスは彼らに答えて言われた、「まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う、子は、父が行なわれることを見ないでは、自分から何もすることができない。父が行なわれることは何でもあれ、子も同じように行なう。

ヨハネ 16:32 見よ、あなたがたがそれぞれ自分の所へ散らされて、わたしを独り残す時が来ようとしており、そしてすでに来ている。しかし、わたしは独りではない。父がわたしと共ににおられるからである。

詩 16:7 わたしは、わたしに助言してくださるエホバをほめたたえます。まことに、夜にはわたしの内なる各部分がわたしを教えます。

詩 16:8 わたしは常にエホバをわたしの前に置きました。彼がわたしの右におられるので、わたしは揺り動かされることはありません。

詩 27:8 「わたしの顔を尋ね求めよ」とあなたが言われるとき、あなたに向かって、わたしの心は言います、「エホバよ、あなたの御顔を尋ね求めます」。

- IV. わたしたちが神ご自身である愛の中に住むとき、愛は「わたしたちの中で全うされました。それは、わたしたちが裁きの日に大胆さを持つためです。なぜなら、彼がそうであるように、わたしたちもこの世でそうであるからです」(I ヨハネ 4:17)。全焼のささげ物の実際としてのキリストはこの世で、愛としての神を生かし出す生活をしました。そして彼が今やわたしたちの命であるのは、わたしたちがこの世で同じ愛を生かし出す生活をして、彼と同じになるためです(3:14. 5:1. 2:6)

I ヨハ 4:17 こうして、愛はわたしたちの中で全うされました。それは、わたしたちが裁きの日に大胆さを持つためです。なぜなら、彼がそうであるように、わたしたちもこの世でそうであるからです。

I ヨハ 3:14 わたしたちは死から命へと移っていることを知っています。なぜなら、わたしたちは兄弟たちを愛しているからです。愛さない者は死の中に住んでいます。

I ヨハ 5:1 イエスがキリストであると信じる者はすべて、神から生まれています。そして生んでくださった方を愛する者はすべて、彼から生まれた者を愛します。

I ヨハ 2:6 彼の中に住んでいると言う者は、彼が歩かれたように、自らも歩くべきです。

- A. わたしたちの霊の中の命の霊の法則は、キリストの律法であり、愛の律法(愛の法則)でもありません(ローマ 8:2. ガラテヤ 6:2)。愛の律法は、命の霊の法則によって実体化されなければなりません。それは、わたしたちが互いに重荷を負い合うことができるためです。しかし、もしわたしたちが高ぶりで満たされているなら、他の人の重荷を負うことができないでしょう。なぜなら、わたしたちは、自分が何者でもないのに自分をひとかどの者と考えていることによって、自分を欺いているからです(3 節)。

ローマ 8:2 なぜなら、命の霊の法則が、キリスト・イエスの中で、罪と死の法則から、わたしを解放したからです。

ガラ 6:2 互いに重荷を負い合いなさい。そうすればあなたがたは、キリストの律法を完全に満たすでしょう。

ガラ 6:3 だれでも、自分が何者でもないのに、自分自身をひとかどの者と考えているなら、自分を欺いているのです。

B-D 愛の法則が発動した結果

B. 愛の法則がわたしたちの内側で発動するとき、わたしたちは自動的にまた自然に牧する者となって、わたしたちの父なる神の愛し赦す心と、わたしたちの救い主キリストの牧養し捜し求める霊を持ちます——ヨハネ 21:15-17. ルカ 15:3-7。

ヨハネ 21:15 彼らが朝食を済ませた時、イエスはシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこれら以上にわたしを愛するか?」。ペテロは彼に言った、「はい、主よ。わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの小羊を養いなさい」。

ヨハネ 21:16 イエスはまた二度目に彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはわたしを愛するか?」。ペテロは彼に言った、「はい、主よ。わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を牧養しなさい」。

ヨハネ 21:17 イエスは三度目に彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはわたしを愛するか?」。ペテロはイエスが三度目に自分に、「あなたはわたしを愛するか?」と言われたので、悲しんだ。そして彼はイエスに言った、「主よ、あなたはすべての事をご存じです。わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を養いなさい」。

ルカ 15:3 そこで、イエスはこのたとえを彼らに語って言われた、

ルカ 15:4 「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいて、その一匹を失ったなら、九十九匹を荒野に残しておき、失ったその一匹を見つけるまで捜しに行かないだろうか?

ルカ 15:5 そして、それを見つけたなら、喜んでそれを自分の肩にかつぎ、

ルカ 15:6 そして家に帰ると、友人や隣人を呼び集めて、『わたしと一緒に喜んでください。なぜなら、失われたわたしの羊が見つかったからです』と言う。

ルカ 15:7 わたしはあなたがたに言う。これと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の義人にまさって、天に喜びがある。

C. 愛の法則がわたしたちの内側で発動するとき、主にあるわたしたちの労苦は愛の労苦となります(I コリント 15:58. I テサロニケ 1:3)。わたしたちはその中で「弱い人たちを支え」(使徒 20:35)、「弱い者を支え」ます(I テサロニケ 5:14)。「弱い人たち」は、彼らの霊、魂、体において弱い人たち、あるいは信仰の弱い人たちを指しています(ローマ 14:1. 15:1)。

I コリ 15:58 こういうわけで、わたしの愛する兄弟たちよ、堅く立って、動かされることなく、いつもいな主の働きに満ちあふれてさい。 あなたがたの労苦は主にあつて無駄になることはない、知っているのですから。

I テサ 1:3 あなたがたの信仰の働きと、愛の労苦と、わたしたちの主イエス・キリストにある望みの忍耐とを、わたしたちの神また父の御前で絶えず思い起こしています。

使徒 20:35 このようにわたしたちは労苦して弱い人たちを支え、また、『受けるよりは、与えるほうが幸いである』と主イエスの自ら言われた言を記憶しなければならないことを、わたしはすべての事で、あなたがたに模範によって示してきたのです」。

I テサ 5:14 また兄弟たちよ、わたしたちはあなたがたに勧めます。気ままな者を諭し、小心な者を慰め、弱い者を支えてあげなさい。すべての人に対して辛抱強くありなさい。

ローマ 14:1 信仰の弱い人を受け入れなさい。ただ、彼の考え方を批評することにならないようにしなさい。

ローマ 15:1 わたしたち強い者は、弱い人たちの弱さを担うべきであつて、自分を喜ばせるべきではありません。

D. 主は復活した後、ペテロを牧養して、ペテロに彼の小羊を養い、彼の羊を牧養するよう委託しました。これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併して、神の羊の群れ、すなわち、召会を顧みることです。この事の結果、キリストのからだは建造され、新エルサレムにおいて究極的に完成して、神の永遠のエコノミーを成し遂げます——ヨハネ 21:15-17。

ヨハネ 21:15 彼らが朝食を済ませた時、イエスはシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこれら以上にわたしを愛するか?」。ペテロは彼に言った、「はい、主よ。わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの小羊を養いなさい」。

ヨハネ 21:16 イエスはまた二度目に彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはわたしを愛するか?」。ペテロは彼に言った、「はい、主よ。わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を牧養しなさい」。

ヨハネ 21:17 イエスは三度目に彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはわたしを愛するか?」。ペテロはイエスが三度目に自分に、「あなたはわたしを愛するか?」と言われたので、悲しんだ。そして彼はイエスに言った、「主よ、あなたはすべての事をご存じです。わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を養いなさい。」

